

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4310710613		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	グループホーム くすのき		
所在地	熊本県天草市楠浦町288番地9		
自己評価作成日	平成23年10月10日	評価結果市町村受理日	平成23年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成23年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆さんが和気あいあいと楽しく生活して頂けるような雰囲気作りに努めています。午前中は体操や歌等を行い、季節に応じた行事や散歩・ドライブ等も楽しんでます。地元の入居者が多く地域の方々との交流や定期的ボランティアの方、天草養護学校との交流も図れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年地域医療に貢献してきた母体医院に隣接し、地域との連携が図られたホームで、「散歩に行きたい」と話しかける入居者に家族の様に寄り添う職員の姿は、まさに理念の“安らぎを与える私の我が家”そのものである。入居者の思いに応えふるさとの祭りに参加し、独居からの入居で「ここがよか」との言葉は、遠方の家族に安心を与えており、厚い信頼が寄せられている。大黒柱的存在の管理者を中心に、「一人ひとりと深く関わっていききたい」と若い職員も思いを語っている。今年初めての看取りに取り組み、最期の場所としてホームを選んでもらい、それに応えた経験をまとめ、施設内研修での発表となり職員の自信や励みとなっている。開設以来地域福祉の先駆者としての活躍が益々広がっていく事が期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安らぎを与える私の我が家」の理念に添い、家庭的な雰囲気作りや安心できる生活環境作りができるようにミーティングや計画書作成する際のモニタリング、カンファレンスでも話し合い、ケアの統一が出来るように心掛けている	入居者に家庭のように気兼ねなく過ごしてもらう事を謳い、簡潔な言葉に見直された理念を玄関や事務所に掲示し、毎月の職員会議や機会あるごとに理念の確認を行いケアの統一を図っている。又、運営方針の中に地域密着サービスとしての目標を掲げ、理事長の会議参加時に話を聞く機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天草養護学校との交流を定期的に行い、隣接のデイケア利用者と触れ合いを持ちながら地区の盆踊り参加、秋祭り見学と行事計画に入れ、ボランティア受け入れも行っている	長年地元の医療に貢献してきた母体医院の隣接は、地域の情報も得られ、祭りなどの地域行事や清掃活動に参加している。継続した地域の小中学生との交流の他、近隣住民が手作りの飾り物を持参したり、ホーム前のゲートボール場でのふれあいなど地域の人々と日常的な交流を持っている。歌や音読のボランティアの訪問等、地域とホームが一体となって入居者を支えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア・デイケア利用者との触れ合いの中や又、天草看護学生施設見学や家族会で、認知症の理解や支援方法の説明をし、理解の協力を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議報告内容に活動内容や疾病・事故等を報告し、参加者の意見等を聞き、検討しながら他職員にも報告しサービス質の向上に努めている	定期的実施されている会議には、地域や包括・家族代表・入居者も参加し、活動報告や意見交換を行っている。参加者からはホームの活動への意見や質問などが出され、会議時以外にも地域の情報がもたらされている。外部評価については、今後結果報告をしていく意向である。	代表以外の家族への会議出席を依頼しており、今後会議の報告や議事録の送付など家族への周知を図られる事に期待したい。また、地元の声を広く会議に反映させるため、地区区長への参加呼びかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上の疑問点や、問題点が生じた時は電話・訪問にて相談し助言を受け、報告書・会議参加等の依頼があれば報告・参加している	研修や集団指導の案内を受けたり、書類提出や相談に行政に出向き関係構築を図っている。運営推進会議に包括からの出席があり、会議の報告書提出時情報を発信している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の排除の理念及び方針を揚げ、定期的にも勉強会を行い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は夜間9時まで開放している。	身体拘束排除に関するホームの理念を明文化し、廊下へ掲示している。研修により再確認をし、スピーチロックを含め拘束のないケアに取り組んでいる。安全面からセンサーを使用する場合は家族に説明し理解を得ている。玄関など開放されたホーム内で入居者は自由に入出し、ベランダでの外気浴や菜園の手入れなどに取組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する勉強会も行き、虐待防止法や種別、対応方法と相談窓口等、虐待に関する理解を深め、発見時の対応等についても定期的な勉強会にて共有し虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前年度は機会なく生年後見制度等の勉強会、不足していた。今後、勉強会の中に取り入れ理解等を深められるように努力していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項内容等や利用料金一覧表を用い月のおおよその利用料金等の説明、各加算・看取り等の説明をし、家族・本人の要望等が反映できるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やサービス計画作成書時に家族等の意見・要望を聞き取ったり、満足度アンケートや目安箱の設置にて、職員間で話し合い質の向上に努力している	目安箱や満足度調査アンケートを実施し、職員間で改善点を検討する等入居者・家族の意見の反映に努めている。家族の来訪時にはできる限り話を聞くように努め、家族ができない部分を職員で補い、外出やふるさと訪問などが実現されている。	重要事項説明書に相談窓口の記載がされ透明性の確保に取り組んでおり、外部機関に公的窓口の追加記載が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議を設け、師長も含めて意見等を出し合い話合っている。年に2回程度理事長も参加してもらっている	毎月の職員会議は、職員が担当制で会議を進行し、全員が高い意識を持って取り組んでいる。理事長や師長は会議出席以外も日常的にホームを訪れ職員とのコミュニケーションを図り、管理者は意見の出にくい職員にも話を聞く機会を作るように心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長も頻繁に来所。師長を交え、職場環境や労働条件等に対して、意見等の交換をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所以外での研修会も受講できるように勤務表作成し、勤務時間内において出席でき、職員の経験に応じた研修に心掛け、研修内容は会議にて報告し共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に市の連絡協議会に参加し、学習会がある。他事業所とも電話や訪問にて、相談等のやり取りや、情報提供等行っている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談とアセスメントを十分に行い本人・家族の意見・要望等を聞き、職員を交え、カンファレンスを行い、サービス提供に反映できるように心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際しての説明を十分に行い、サービス計画書等の説明をし、アセスメントを行いながら気軽に話し合える関係作りを目指している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた段階でパンフレットをもち説明をしたり、他施設の紹介や、地域包括支援センターの説明もし、他機関の紹介も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の要望等を傾聴し、理念「安らぎを与える私の我が家」を念頭に和気あいあいとした雰囲気作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて、生活面・身体面の状況等の説明を行い、家族の意見が出やすい雰囲気作り心掛け、年2回の家族会でも家族と本人のふれ合いに心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方との交流に心掛けている。又、散歩等にて、知り合いの方との会話や地域見学。又、友人の方が来訪しやすいように声かけや環境作りを行っている	親戚や友人が気軽にホームを訪れたり、地域の祭りや馴染みの美容室へ出かけるなど、これまでの生活の関係継続に努めている。家族との外出や、家族対応が難しい場合は職員が墓参やふるさとでの老人会参加などを支援している。新聞に目を通し、好きな歌が自然に入居者の口からこぼれ、得意げに「バナナのたたき売り」を披露されるなど、個々の馴染みがホームの明るい毎日となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースの席、気の合った方との同席の工夫を行っている。活動等の時は固定せず、利用者同士が交合える支援に努力している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後、本人・家族より相談ごとがあった場合は、相談に乗ったり、又、面会や訪問も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の日々の会話や表情等から思いや意向の把握に努め、又、家族の面会時や電話にて生活状況等の説明をし、要望・意見等を聞き職員で検討しケアに反映している	入居者は職員へ「散歩に連れて行って」と家族に頼むように話し、職員もそれに応えている。アセスメントから本人の好きな事や馴染みを把握し、表情や態度から思いを汲み取り、家族や関係者から情報を得る事で本人本位の生活を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人・家族へのアセスメントや他機関に情報提供を依頼し、これまでの暮らしや生活環境等の把握を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前のアセスメントや入居後の日々の日常生活動作面から身体状況等の把握に努め、変化があれば、その都度カンファレンスを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成の場合、本人・家族に意見を聞いたり主治医に療養上の注意点を聞き、職員でカンファレンス・モニタリングを行い、現状に応じたサービス計画作成を行っている	本人・家族の意向を確認し、これまでの生活歴や主治医の意見を取り入れ援助方針を作成している。全職員での定期的なモニタリング・カンファレンスや定期的見直しの他、状況に応じたカンファレンスや医師を含めた担当者会議により、修正・見直しを行う等現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録表を作り、一般状態の観察を行いながら、気づきや状態変化時は、その都度、カンファレンスを行い、ケアの実践やプラン見直しに反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医や師長の意見を取り入れ、又、他事業所との連携も取りながら、本人に合った支援の取り組みに心掛けを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて入居者の状況や活動の説明を行い、意見を出し合ったり、又、地区消防団に協力を依頼し、災害時の避難場所・経路等を協議し安全な生活の確保に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医院を掛かり付け医としている。月に2回の定期受診と必要に応じ受診の支援をしている。他科受診の場合は家族と一緒に職員も同行し、主治医と連携を取りながら入居者の健康管理に努めている	入居前より母体医院をかかりつけ医としていた方がほとんどであり、入居者は顔なじみの主治医や関係者と信頼関係を継続しながら、月2回の定期受診や必要時の往診により適切な医療支援を受けている。他科受診には家族と共に職員が同行し、訪問歯科による口腔指導も行われている。毎日のバイタルチェックや入居者の様子から異常の早期発見に努め、母体看護師長と連携を図りながら入居者の日頃の健康管理に心を配っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師2名を配置。介護職員は一般状態変化時や異常時は、看護師に報告し母体主治医と連携を取りながら、いつでも受診等が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関や主治医との連携を密にし、フェースシートやサマリー等を互いに交換しながら共有し、入院・退院時に支障が生じないようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化時や看取り時は事前に主治医・師長・家族を交え、十分な説明をし同意を得、希望や要望に沿っての支援をしている。又、入居時に説明し同意も得ている	契約時の説明で重度化や終末期に向けたホームの方針を説明し、家族と同意書を書いている。必要時には家族、主治医、看護師、管理者を交え看取りケアについて説明を行い、家族の精神的負担に配慮しながら同意書を取り直している。支援時は看取りプランを新たに作成し、母体との連携を図り夜間帯の職員配慮を2名体制とする等、職員のメンタルに配慮した支援を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応方法や連絡体制をマニュアル化し、職員がいつでも見れるように電話横に張り出している。又、定期的に勉強会も行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防団を交え、避難場所や経路、又、地域連絡網を作成。年に2回の消防訓練も地元消防団と一緒に協力を得ている	消防署や消防団立ち会いの元、通報、初期消火、避難誘導等の総合訓練を日中や夜間を想定して実施している。地域連絡網には、区長や消防団長も名を連ね協力体制を築いている。スプリンクラーの設置、業者による年一回の屋内設備点検や日誌の中に火元確認の項目を設け職員がチェックしている。海に面した地域である事から、津波を想定した避難経路や避難場所を印したマップを地域で作成し、11月の訓練時に再度検討確認したいとしている。	今後も引き続き地域との協力体制の強化や職員の意識づけを図り、有事に備え、備蓄の確保が求められる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に勉強会を行い、又、マニュアルを職員で共有し、毎日のケアに心掛けている。又、注意し合うようにもしている	管理者は職員に対し敬意の心を持って入居者に接する様指導し、言葉使いや入室時のドアノック等、気づいた時にその都度注意を促している。呼称は同姓入居者が多い事から、下の名前や本人の馴染みの呼び方で対応している。個人情報について家族と同意書を交わし、ホーム便りへの入居者の写真掲載に関して家族に了解を得ている。又、守秘義務について職員は法人と契約書を交わし書類を事務所で一括管理し漏えい防止に努めている。	若い職員のはつらつとした対応は入居者に元気を与え、日課の歌や体操でコミュニケーションを図り、入居者の笑顔を引き出している。その中で声かけや対応が親しみを込めながらも節度あるものになっているか、勉強会等で自身を振り返り、今後のケアにつながる事が期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日の流れにおいて、本人の希望等が遠慮なくできるように常に声かけをし関係作りに努めながら意思の尊重ができるように配慮をおこない支援をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが入居者の希望時は希望等を受け入れ、体調不良時は体調に配慮しながらの支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声かけをしながら本人の希望を聞き、時にアドバイスも行いながら支援している。訴えの出来ない方には、更衣等や整容面、声かけしながらの支援をするようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好食を聞き出来る限り入居者の好みの食事提供に心掛けている。又、その日のメニューも入居者が見れる場所に張り出し楽しみが得られるようにしている。各自の能力に応じ出来る事は一緒に行っている	好みを反映させた一週間分の献立を作成し、地域店を利用し、入居者によっては代替え品を準備し対応している。食器洗いや夕食の下ごしらえ(野菜の皮むき、大根おろし、団子作り)等入居者も出来る事で食に関り、食事形態についても看護職員を交えて話し合い、ミキサー食やとろみをつける等、個々の嚥下状態を確認し支援している。行事に合わせ、時には仕出しを取ったり、家族会を兼ねて入居者と家族が共に食事を摂り、バリエーション豊富な食への取り組みをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックを行い、メニューは栄養士の献立を基に職員で話し合い作成している。又、状態変化時は常にカンファレンスを行い状態にあった対応をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個人の希望や能力に合わせて、ウガイや歯磨き、義歯の管理などを声かけしながら支援を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて各入居者の排泄パターンを把握し、失禁のある方や尿意等の訴えない方は定期的に声かけトイレ誘導等を行い出来る限り失敗の少ないような支援をしている。	チェック表で個々のパターンを把握し声かけや誘導によりトイレでの排泄を支援し、自立した方には見守りで支援している。夜間帯も自室のトイレを使用したり、ポータブルトイレの設置や排泄用品の見直しにより睡眠を妨げない様工夫している。褥瘡が心配される入居者へはエアーマットで対応し、排泄後も清浄や清拭で清潔保守に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	植物繊維の多いメニューを多く取り入れたり、牛乳等での対応と体操等で運動してもらい、出来ない方は少しでも多く無理なく離床してもらっている。又、腹部マッサージも行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴の準備は行っている。週3~4回のペースにて支援、又、状態に応じ毎日入浴も行い、入居者の訴え時も行っている。入居者に応じ好みのシャンプーやボディソープを使用している	拒否をされる入居者もおられず、1日に置きの入浴を楽しみにされている。見守りや時には複数介助によりゆっくり入ってもらう様心がけ、皮膚科へ通院中の入居者へ毎日支援する事で改善がみられ喜びに繋がっている。菖蒲湯、柚子湯等の季節風呂も支援している。	入浴を楽しみにされている入居者へ、外出を兼ねた温泉支援を家族へ協力依頼する等、新たな取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動のパターンは固定し生活のリズムを整えている。本人の訴えや体調に応じ休んでもらっている。又、入眠時は必ず声かけを行い安眠できるような環境作りに心掛けしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳を保管し、いつでも確認できるようにしている。服薬整理は看護師が行い薬に対する疑問等は、主治医・看護師に相談し助言を受けている。誤薬の無いように声かけ確認しながら服薬介助を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時、本人・家族にアセスメントを行い、出来る限り本人に合ったサービス計画を作成し、日々の暮らしの中で本人の喜び等を見つけ、希望等を聞きながら毎日が過ごせるよう、見直ししながら支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や希望時は散歩やドライブへ行き、本人・家族等の外出希望時も支援をしている。又、地区の協力にて夏祭りに参加したり秋祭り見学もしている。又、いつでもテラスに出て菜園や海眺めながら外気浴できるように支援している	入居者は日常的に海が見えるホーム周辺を散歩し、地区の集会場で老人会やサロンに参加した人々と、気軽に挨拶を交わしている。系列通所サービスの車を借りて花見学に出かけ、遠方の海までのドライブは入居者の楽しみとなっている。家族の協力による食事や買い物の外出も行われている。日当たりの良いテラスは外気浴の場として活用され、目の前の海を眺めながら入居者は穏やかに過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事業所で管理し、本人の買いたい物品の希望があった場合や散髪希望時等は、その都度希望に応じ気安く支援をおこなっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・友人からの電話の取り次ぎや入居者からの電話希望時や必要時はその都度支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	海を眺めたり、地域の人の往来が見える明るいホール(共用の場)である。壁にはイラストや各活動内容等を写真を交え貼り出し、玄関には生け花等を飾っている	玄関を入ると入居者と職員が地域から頂いた向日葵の花が、来訪者を温かく迎えている。南側の大きな窓からは日差しが降り注ぎ、そのままテラスに続いている。対面式の台所から聞こえる包丁の音や炊飯の匂いがホール内を包み、入居者は日課である歌を唄いながら食事を待たれている。ホール横の畳の間は通所サービスを利用する方々の休憩所としても利用され、自ら休息に布団の準備をされる利用者の姿があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者との同席ができるようにテーブル配置に工夫し、自由に畳の間でくつろげる空間がある。時にデッキへ出て外の景色が眺められるようにベンチを設置してある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物は持って来てもらっている。又、入居者の必要品等の希望があった際には家族へ連絡し持って来ていただいている	座卓やテレビ、仏壇、衣装ケース、家族写真等、入居者の馴染みの品が持ち込まれ、自分の部屋として自ら掃除をされる入居者もおられる。各居室にはトイレが設置されており職員の手で清潔に保たれている。天気の良い日は布団の日光消毒により、入居者に気持ちよく就寝してもらうよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋のトイレや廊下等には手摺りを設置し、又、個々の身体レベルに応じ夜間帯はポータブルトイレを使用したり、滑り止めマットを敷いたり職員間でカンファレンスをおこないつつながら安全の確保に努めている		